

あしよろ・ハードサポート通信

3月に入ってから穏やかな天気が続いて雪解けも進み、徐々に春の訪れを感じられるようになってきました。来月から新年度になりますので、新たなスタッフを迎える牧場もあるかと思えます。今回は「酪農フレッシューズ」向けに、牛とはどんな動物で、どのように接したらよいかの話題です。

◆ 牛はどのような性格の動物？

牛は好奇心が旺盛な反面、憶病で警戒心が強い性格でもあり、本来は「逃げる」習性を持つ動物です。人が牛に近づいたり、牛が恐怖を感じたりするとまず逃走し、逃走ができなければ自分の身を守るために蹴るなどの行動をします。

牛の動きをコントロールするためには、このような習性を理解した上で、牛へ接する方法を考える必要があります。

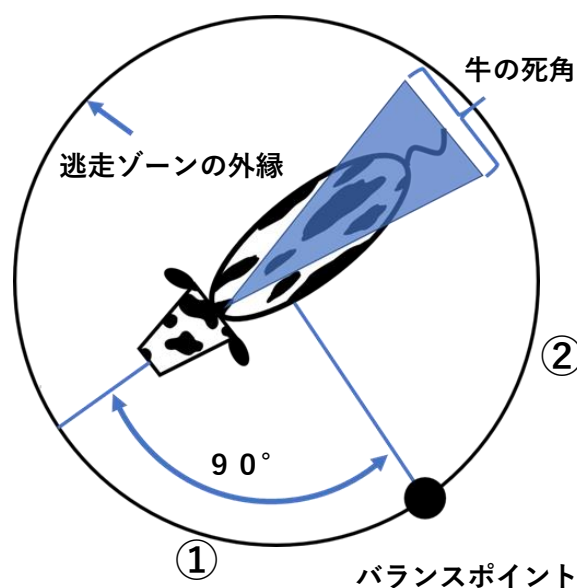


◆ 牛側の目線から考える

牛には逃走ゾーンとバランスポイントというものがあります。右の図で外側の円の内側が逃走ゾーンであり、この円の中に人が入ると牛は遠ざかろうとします。この時、牛がどう動くかは人が●のバランスポイントのどちら側にいるかで決まります。①の方から近づくと牛は後ずさりをするか、方向転換して人から遠ざかります。②の方から近づくと牛は前へ進みます。

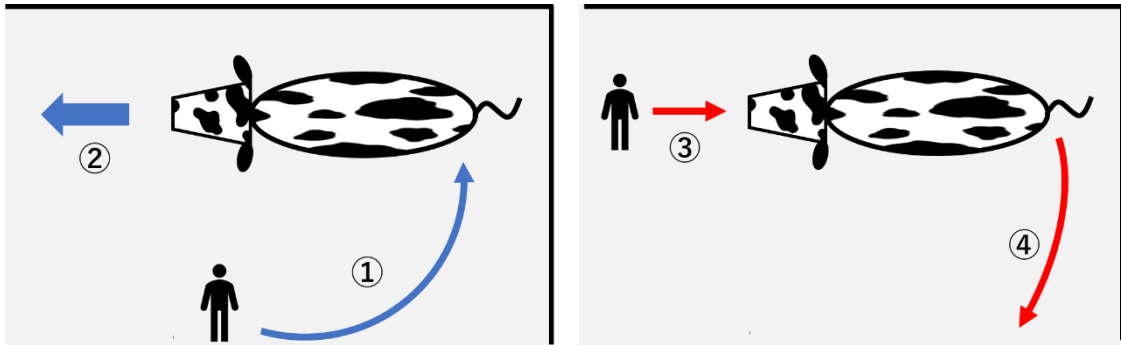
また牛の真後ろは死角であり、急に近づくと牛がびっくりして蹴ったりすることもありますので注意が必要です。

この原理をよく理解し、ゆっくりと近づくことでストレスをかけずに牛の動きをコントロールできます。



参照：乳牛管理の基礎と応用 柏村ら(2012)

◆ 実際に牛を動かすときのポイント



上の図のように、建物の隅の方に牛がいる場面があったとします。

牛を前の方へ歩かせたい場合、左図の①のようにバランスポイントの後ろ側から牛に近づくと、牛は②の方向へ歩いていきます。しかし右図の③の方向から牛に近づくと、牛は後ずさりをして、そのまま④の方向へ歩いていってしまいます。

◆ 牛へ接するときにはやってはいけないこと

牛は臆病な動物です。牛が思ったように動いてくれない場合でも、決して大きな声を出したり牛を叩いたりすべきではありません。もし搾乳作業の前後に牛を怖がらせるようなことを続けると、搾乳自体を「怖いもの」と学習し、乳量に悪影響が出ます。

また牛に走って近づいたり死角から近づいたりすると、牛が驚いてパニックになることがあります、人が牛に挟まれる、踏まれる、蹴られるなどの思わぬ事故が発生する危険性があります。

- ✕ 大きな声や音を出す
- ✕ 牛を叩く
- ✕ 走って牛に近づく
- ✕ 牛の死角から近づく

◆ 牛と人が仲良く過ごす毎日を

牛に恐怖心やストレスを与えないようにするためには、声をかけながらゆっくりと近づき、牛に触れるときは優しくタッチしましょう。牛にとって人が怖い存在でなければ、牛の移動もスムーズになり、ストレスによる生産性の落ち込みも無くなります。牛と人がお互いに怖がることなく、「仲良く」過ごすことを心がけながら、毎日の作業を行っていただけたらと思います。



(市川雷太)

.....
 ・4/17(水)に“哺育育成牛の飼養管理についての聞き取り結果”の報告会と、関連トピックスの勉強会を農協2Fで開催予定です。詳細は後日FAXにてご連絡します。